

# 白山社会学会ニュースレター

発行/白山社会学会 <http://www.geocities.co.jp/CollegeLife/6234> 事務局/〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20 東洋大学社会学部気持郵便振替「00160-8-134254 白山社会学会」年会費 5000 円・学生会費 3000 円・入会費なし・寄付金歓迎

## 第19回 白山社会学会大会 開催予定

日時：12月22日（土）  
会場：予約中（白山）

## 第2部社会福祉学科開設される

2001年4月、社会学部第2部に社会福祉学科が開設された。昨年は第1部に社会文化システム学科、メディアコミュニケーション学科、社会心理学科が新設されたが、それに続く新学科（入学定員75名）である。これにより東洋大学社会学部は、第1部5学科、第2部2学科の計7学科を擁する学部となった。

同学科では所定の科目を履修すれば、「社会福祉士」の国家試験受験資格が認められる。

## 第2部社会福祉学科

### 開設記念シンポジウム（公開）開催

第2部社会福祉学科発足を記念して社会学部主催で、5月12日（土）13:00から14:45まで、1102教室において、「『いのち、人権、創造』をうみだす社会福祉学の構築をめざして」というテーマの下、大友信勝教授の司会・コーディネートにより、以下の通り3人のシンポジストから発表があった。

片平潤彦「いのちの重み―葉書を通して考える」  
藤田博仁（愛知県立大学）「ホームレスと福祉問題―縦割行政から人間本位へ」

須田木綿子「日米のNPOと新たな社会福祉への視座」  
藤田氏は元東京都新宿区職員で、福祉社会システム専攻修了・二季の会初代代表。

引き続き15:00より、16階スカイホールで、開設記念パーティーが開かれた。

## 第18回白山社会学会大会開催

白山社会学会第18回研究大会は、2000年12月16日（土）白山校舍新1号館4階1407教室を会場に、10:00より開催された。

午前の部は「自由報告」で、以下の3報告があった。  
田中敦子（財・日本訪問看護振興財団事務局、福祉社会システム専攻修了）

「日本の初等教育におけるDeath Educationの必要性とその実践課題について」

チー・ナブチ（東洋大学大学院 社会学研究科社会学専攻 博士後期課程）

「モンゴルの他界観について」

池田正敏（東洋大学社会学部教授）

「フィリピンにおける新中間層の形成とその社会的特性」

続いて総会、昼食の後、退職される山手茂教授の特別講演「社会学・社会福祉学50年―私の研究者ネットワーク体験」が行われた。

シンポジウムはく非行少年について「考える」>をテーマに細井洋子企画委員がコーディネートし、松本恒之教授（東洋大学社会学部社会心理学科）の司会により行われた。

シンポジストとして小柳武（法務省矯正局国際企画官）、眞壁坤子（神奈川県警、少年相談員）、前田信一（都立教護院、相談員）、矢部武（ジャーナリスト）が発表した。発表者各氏とも本学の卒業生・在学者であり、このような企画が関係各分野の一線で働く本学関係者のみで組めたことは特記される。内容詳細は『白山社会学研究』第9号に掲載されている。

終了後、懇親会は白山白木屋で行われた。

## 総会報告

2000年12月16日の大会時に第18回白山社会学会総会が開催された。

高橋直之会長の挨拶の後、丸山晃氏が議長に選出された。

【黙樹】2000年4月に病没された喜多川豊宇会員に対し黙樹。

【活動経過報告】1999年12月～2000年11月  
①3月4日、第2回児童館・学童保育関連卒業論文等発表会開催、②3月11日、第6回関東地区 社会学・社会福祉学修士論文等発表会開催、③3月『白山社会学研究』第8号発行、④5月6日、10月21日、運営委員会、⑤9月9日、ミニ・シンポは事務局準備態勢の余裕なく中止、⑥9月14日『白山社会学会ニュースレター』第21号発行。

【会計報告】会員の方は同封別紙をご参照下さい。

【活動計画】

- ①第3回児童館・学童保育関連卒業論文等発表会開催、  
②第7回 関東地区社会学・社会福祉学修士論文発表会開催、③『白山社会学研究』第9号発行・第10号編集、など。

#### 【規約改正案】

社会学部の5学科新体制化に伴い、「応用社会学科」は該当在学生の卒業をもってなくなる。この点を考慮して、「第1条 目的」を（現行）「社会学および応用社会学研究の促進をはかること。」を（改正案）「社会学および社会福祉学とその応用研究の促進をはかること。」への変更案が提案されたが、文言の慎重再検討を要求する意見が出され、否決された。

#### 【役員人事】

『白山社会学研究』編集委員長 大坪省三

編集委員 川池智子（庶務）、大島尚、酒井俊二、清水浩昭、坪井健（ニューズレター21号に掲載した案では井出裕久氏の名も事前の本人承諾を得ないまま含まれていましたが、現時点では別の学会事務担当等による多忙を理由に辞退されました）

査読委員 渡辺博史（編集委員から移動）、古川孝順（新規依頼）、竹内郁郎（辞退）

#### 【その他】

保存スペースがないため、『白山社会学研究』バックナンバー（保存分を除き）、会記録等書類・録音テープの処分」提案に対して、白山校地に近い森田秀範会員から保管場所の提供発言があった。

### 第7回関東地区

#### 社会学・社会福祉学 修士論文等 発表会 の開催

2001年3月3日（土）、13:00より第7回関東地区社会学・社会福祉学修士論文発表会が白山校地、講義棟（新1号館）7階の1704教室で開催された。発表者と発表題目は以下の通り。なお、一人当たりの発表時間は20分、質疑応答時間は10分として行われた。

関秀司（東洋大学・社会学研究科 福祉社会システム専攻）

「開業社会福祉士事務所の現状と課題」

中村英三（東洋大学・社会学研究科 社会福祉学専攻）

「社会福祉改革と養護老人ホームの再編・再構築～福祉サービス提供者の現状と利用者ニーズを中心として」  
松崎実穂（お茶の水女子大学・人間文化研究科 発達社会科学専攻）「高齢者介護と家族・「介護」が介在する関係性への着目～「介護」の社会化の流れの中で」

清水隆子（早稲田大学・教育学研究科 学校教育専攻）

「親の性役割態度に関する研究～色彩選択を中心に」

講評：山手茂（東洋大学教授）

西倉実季（お茶の水女子大学・人間文化研究科 発達社会科学専攻）「〈美しさ〉の再生産に関する一考察～美容整形に携わる人々の語りから」

宝月理恵（お茶の水女子大学・人間文化研究科 発達社会科学専攻）「近代日本における医事衛生と国民の医療化」  
阿部英之助（東洋大学・社会学研究科社会学専攻）「教育社会学における『教育把握』の意義とその批判的検討～教育における見えない関係性が持つ歴史構造的アプローチ」

講評および「話題提供～修論執筆に立ち会って」

奥田道大（中央大学教授）

### 第3回児童館・学童保育関連卒業論文等発表会

第3回児童館・学童保育関連卒業論文等発表会が同じ3月3日（土）、10:00より17:00まで、白山校地1710教室にて開催された。子どもと社会教育の会、NPO法人「青少年ネット」との共催による。

第I部：学童保育関連卒業論文発表

座長：志濃原亜美（埼玉純真女子短期大学）

玉置隼人（中央大学文学部）「学童保育整備の実感と課題」  
木谷徹（和光大学人間関係学部）「学童保育と子どもの発達～学童保育の「生活づくり」実践の変遷を追って」  
三矢勝司（名古屋工業大学高橋博久研究室）「民家型学童保育施設の空間構成に関する調査研究」

第II部：児童館関連卒業論文等発表1

座長：植木信一（県立新潟女子短期大学）

若林ちひろ（東洋大学社会学部）「都市における小学生の放課後支援」

真砂亜紀（東洋大学社会学部）「都市における中学生の居場所について」

足野一人（埼玉大学教育学部）「ティーンズにとっての児童館～「子どもの社会教育」研究の視点から」

第III部：児童館関連卒業論文等発表2

座長：深作拓郎（法政大学）

日比野公映（日本女子体育大学体育学部）「児童館と学校週5日制」

酒匂宗仁（明治大学経営学部）「“さをり”を通して」

高見啓一（明治大学文学部）「中学生バンド活動と社会教育」

総括と挨拶 立柳 聡（福島県立医科大学）

### 山手茂先生・小川一枝先生 退職される

2001年3月をもって、社会福祉学科および大学院社会福祉学専攻・福祉社会システム専攻で教鞭を執られていた、山手茂先生は定年まで1年を残して退職され、4月に新設された新潟医療福祉大学（新潟市）の社会福祉学部の学部長として就任された。本会副会長はそのまま継続していただく。

小川一枝先生は長く教養課程でドイツ語を担当され、再編に伴い、メディアコミュニケーション学科に移られたが、「ご自身の人生計画」に沿って定年を前に退職された。先生は、平成元年から「バックス記」と題して、酒

神バカスを中心にギリシア諸神に関する研究論文を年々継続発表され、この3月にその文献一覧をまとめて一区切り付けられた。

## 会員の近著紹介

この程、私たち白山社会学会会員、岡田(高橋)直之、北川慶子両会員の下記近著(各単著)を拝読する機会がありましたので、ここにご紹介致します。

(1)岡田直之『世論の政治社会学』東京大学出版会、2001年2月発行、1章「世論の総論的考察—世論研究の道しるべ」、2章「世論概念の歴史的展開—一つの概念的スケッチ」、3章「世論概念の見取り図」、4章「新聞と世論」、5章「テレビと政治」、6章「合理的市民像の現代的文脈—能動的受け手論をめぐって」、7章「55年体制の崩壊と日本政治の新たな胎動」、8章「世論とメディアと民主主義」(全260頁)

(コメント)紹介者は、本書を通じて、特に西欧諸国における、近世以降の近代化過程を通じて、各国における民主的政治意識の形成と展開のプロセス、及び無線電機器等の発明・実用化もあって、次第にグローバルな規模の政治意識や規範が形成され、国際社会の形成を著しく促進した一連の貴重な過程を体系的に学ぶことができました。

(2)北川慶子『高齢期最後の生活課題と葬送の生前契約』九州大学出版会、2001年2月発行

1章「高齢期における死への準備」、2章「アメリカにおける死と葬送」、3章「アメリカにおける葬儀の生前契約」、4章「わが国における葬送への意識と葬送負担」、5章「わが国における葬儀生前契約の動向」、6章「高齢期の生活課題と葬儀の生前契約」(全303頁)

(コメント)本書は、高齢期における各種生活課題の諸相、特に葬送の生前契約のあり方について、アメリカとの比較考察を中心として、また近年におけるこれら様式のあり方と今後の課題について、実証的に分かりやすく説明されています。したがって、それらの今日的課題解明の実践的手引書としても是非一読されることをおすすめ致します。(酒井俊二記)

\*山手茂監修、豊田保・西村昌記・宮田由美子・米山久美子編著『福祉社会の最前線—その現状と課題』相川書房、2001年4月1日発行

本書は山手先生の指導を受けた人たちが寄稿した論文集である。編著者以外の共同執筆者に、佐藤信人・保坂良一・坂田伸子・中村美鈴・佐々木百合子・石井理予・山中達也・徳江与志子・村社卓・飯田苗恵・村上信・喜勢昌枝・鈴木美恵子の各氏。

\*山手茂『社会学・社会福祉学50年』三冬社、2001年5月6日発行

\*佐藤豊道『ジェネラリスト・ソーシャルワーク研究』

川島書店、2001年5月30日発行

本書は学位論文を刊行したもので、

なお、会員ではないが、次の訳業がある。

ラルフ・ダーレンドルフ(加藤秀治郎・楡山雅人訳)『現代の社会紛争』世界思想社、2001年1月10日発行

訳者の加藤氏は法学部教授で、政治学担当。

## 学位

【東洋大学広報・アーカイブズ】No.368によると、学位の取得・授与は以下の通り。

- ・大友信勝(社会学部教授) 博士(社会福祉学)乙  
「公的扶助研究運動と生活保護行政の歩み」
- ・佐藤豊道(社会学部教授) 博士(社会福祉学)乙  
「ジェネリック・ソーシャルワーク研究序説」
- ・山口稔 博士(社会福祉学)乙  
「社会福祉協議会理論の形成と発展」
- ・早坂裕子 博士(社会福祉学)乙  
「ターミナルケアとがん患者の主体性」
- ・平山真 博士(社会学)甲  
「東北シャマニズムにおけるコミュニケーション行為の諸相—宮城・山形両県の口寄せ巫女の共同祭祀を題材に」
- ・伊藤富士江 博士(社会福祉学)甲  
「ソーシャルワーク実践における課題中心モデルに関する研究—わが国における適用をめざして」

## 関連団体の動向

東洋大学大学院社会学研究科福祉社会システム専攻修士生の会<二季の会>が主催して、3月24日(土)13:30—15:30、白山1408教室で、「山手茂先生特別講演会」演題「社会学・社会福祉学50年—研究・教育・実践の関連」が開催された。

また、同日、18:00—20:00、白山5丁目の千石会館にて「7期修了生祝賀会および懇親会」が行なわれた。この催しは、同専攻がセメスター制で、3月と9月に修了生を出すことから、「春の会」「秋の会」として恒例化しているもの。

同日の総会で、<二季の会>代表世話人(第2代)として、井上光晴氏が選任された。初代は藤田博仁氏。

## 学内動向

・平成13年度社会学部新任教員

社会学科

西野理子講師(家族社会学、ライフコース論)

社会文化システム学科

大畑裕嗣教授（社会文化計画論。社会文化運動論。コア研究）

小林修一教授（文化社会学。情報社会論）

社会福祉学科

片平潤彦教授（保健学。医療福祉学）

須田木綿子助教授（老年学。ボランティアズム）

藤林慶子助教授（医療保障。介護保険）

吉川かおり講師（障害者福祉）

・学部・大学院の平成13年度役職者

社会学部長	吉川孝順
社会学科主任	青木辰司
第2部社会学科主任	駒井義昭
社会文化システム学科主任	松本誠一
メディアコミュニケーション学科主任	磯部成志
社会心理学科主任	大島 尚
社会福祉学科主任	秋元美世
第2部社会福祉学科主任	森田明美
大学院委員長	広瀬英彦
社会学研究科委員長	小林幸一郎
社会学専攻主任	末成道男
社会福祉学専攻主任	園田恭一
福祉社会システム専攻主任	大坪省三

・4号館の竣工

白山神社側に新4号館（学生厚生棟）が竣工し、南門が再び通行できるようになった。同館には体育館・サークル部室・生協・食堂等が入っているが、新1号館（講義棟）側に社会調査室・社会福祉実習指導室・社会心理実験室・スタジオ等の社会学部実習関係の拠点が整った。

・旧1号館の解体工事始まる。

旧白山通りに而した旧1・2号館の解体工事が始まった。東門からの出入りは不便になる。旧1号館跡はオープンスペース（甬水の森）となり、その坂を上がった場所に新たな建物（井上記念館）が建設される。

・平成13年度海外特別研究員は紀葉子助教授（社会学科）、同国内特別研究員は芳賀正明教授（社会文化システム学科）、渡辺満久助教授（社会学科）。

・4号館竣工と旧1号館解体、甬水会館改修に伴い、あれこれ引越し作業が行なわれた。また、平成4年に倉庫に一時保管で納めた社会学部教員ダンボール箱が10年ぶりにその倉庫で多数発見（！）された。搬出するのが忘れられたままになっていたらしい。すでに退職された先生方の箱も出てきた。

## 事務局よりお知らせ・お願い

・『白山社会学研究』第9号発行

「原稿料がない？」と微笑んで、寄稿依頼を引き受けていただいた大会シンポジウム発表者をはじめ、多くの査読委員の先生方、これら多くの協力者に感謝の意を表

する。大坪編集委員長、川池編集委員、事務局の中俣・坂田委員などが半年以上に及んだ編集作業の労を担い続けてくれた。どの学会も同じような状況であるけれども、これらの方々の労力はすべて無報酬の厚意に基づくものであることを、改めて明記しておく。

東洋大学大学院学生には『大学院紀要』に投稿の道が開かれているが、社会学研究科学生の投稿希望は多く、近年は研究科単独の分冊を出している。それでも多くの在籍者、修了者の全体を考えると広いとは言えない「場」である。そこに投稿希望を出しながら、投稿に至らずで断念するケースも例年少くない。こうした点で、『白山社会学研究』にも投稿機会が開かれていることの意味は大きい。

近年、大学院在籍者の本会入会申込みが多くなってきている。これが本会の収入状況を好転させている。そして、それによって現在『白山社会学研究』も毎年発行しうる程度に財政的余裕が生じている。（それでも、会費振込をお願いします）

5月に院生指導会で副田義也先生の講演「職業としての社会学」があり、社会学系大学院学生の努力目標が具体的に列挙されていたが、その項目の一つに研究会を支える仕事を進んで担うこと、というのがあった。その体験の場は本会も提供できる（とボランティアを呼びかけたい）。

（文責・松本）

## 役員一覧

会長：高橋直之

副会長：山手茂・米林喜男

運営委員：秋元美世・穴田義孝・天野マキ・池田正敏・泉田渡・稲沢公一・炭木竹二・大島尚・大坪省三・大友信勝・奥田道大・酒井俊二・佐藤豊道・島崎哲彦・鈴木勁介・田中豊治・坪井健・中山伸樹・西山茂・芳賀正明・細井洋子・宮良高弘・渡辺博史

企画：天野マキ・西山茂・細井洋子・米林喜男

会計：森田明美・川池智子

監事：園田恭一・清水浩昭

顧問：岩井弘敏・酒井俊二・高橋統一・竹内郁郎・藤木三千人・山下銀装男

『白山社会学研究』編集委員長：大坪省三

編集委員：川池智子（庶務）・大島尚・酒井俊二・清水浩昭・坪井健

査読委員：天野マキ・池田正敏・稲沢公一・宇都宮京子・大友信勝・佐藤豊道・園田恭一・高橋直之・古川孝順・松本誠一・森田明美・山手茂・渡辺博史

事務局：松本誠一（事務局長）・旭洋一郎（広報）・市川藤雄（広報）・上芝栄子・酒井出・坂田伸子（会計・二季の会との連絡）・城正子・立柳聡（児童館・学童保育卒論発表会）・寺田貴英代・中俣圭（庶務）・春山勝・森田明美（総務）・山下興一郎・山下正司